

科目名	地域社会と経済
単位数	2単位
担当者	野田 裕康、小山 郁也、大石 章、篠田 敬子
授業種別	講義科目

サブタイトル	地域社会と経済について本学内外の講師から地域と生きた「経済」を学ぼう
授業内容	日本の経済や地域社会は、今、問題がたくさんあります。それが皆さんの就職問題にも跳ね返ってきていています。大学卒の離職率が高くなっていることです。この講義では若者の就職、地域のまちづくりや企業の現状、市役所や県庁のいろいろな取り組みを見ていきます。 講師は本学教員と、企業人・公務員・NPO・市民の方々と、地域の第一線で活躍されている方が自分の体験に沿って講義していきます。
アクティブ・ラーニングの要素	クリッカー、タブレット端末等を活用した双方向授業／リアクションペーパー
到達目標	皆さんに必要なのは、生きた現実を知り、実社会に対する現実感覚を身につけることです。この科目の到達目標は、「地域の経済や社会が、どのような状況にあるのか」、「どのような問題を抱えているのか」について学習することです。地域といっても、飯能市や入間市に限った話ではありません。おそらく日本全国の地方や地域が、共通して抱えていると思われるような問題や課題について勉強します。そこから今後地域に生きる社会人として、何が問題でそれをどう解決していくのか考えていく力を養います。
到達目標となる駿大社会人基礎力	②非言語処理力／④論理的・多面的思考力／⑬課題発見力
卒業認定・学位授与方針との関連	この科目は、ディプロマ・ポリシー（全学部）の「(5)総合的な力」と関連しており、社会のあるべき姿と現状を適切に認識し、様々な角度から分析して課題を発見することができます。
関連科目	「経済学」「地域と金融」「地域社会と環境」など、経済に関連する科目をすでに履修しているか、同時に履修することが望ましい。

テキスト・参考書等

書名	著者	出版社	ISBN	備考
-	-	-	-	テキストは使用しない。

授業外における学習方法及び必要な時間	講義時に掲出されたスライド資料（パワーポイント）や配布資料から重要と考える箇所をメモしておき、授業終了後にノートにまとめておくこと（2時間） 講義後に理解できなかった用語などを、メディアセンターや経済辞典などで確認すること（2時間）
--------------------	---

成績評価方法

評価方法	評価割合	成績評価基準等
小テスト	75%	到達目標に対応して、毎回の授業内で内容に関連する小テストを実施する（5点×15回）。
受講態度	25%	私語、スマホ操作、内職、居眠りなどは毎回減点対象とし、教員が適宜判定する。
その他関連する事項	-	欠席回数が4回を超えた場合には、成績評価の対象外となり、単位修得できない。

課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業で理解度確認及び復習として、小レポートを作成し、授業終了時に提出します。
------------------	---

実務経験のある教員による授業科目等

担当教員の实務経験	実践的な教育の取組
-	-

授業計画

第1回	ガイダンス、地域の社会とは、地域の経済とは
第2回	若者の就職状況（中卒、高卒、大卒、院修了）
第3回	様々な社会と企業（働くこと、遊ぶこと、学ぶこと）
第4回	地域の元気な取り組み

第5回	ドイツの地域経済・地域社会
第6回	「住み続けられるまちづくり」に貢献する
第7回	「元気な子どもが育つまち」をサポート
第8回	シビックプライドを育てるメディア
第9回	地域での自然環境保全活動の実際
第10回	天覧山周辺の自然
第11回	地域の自然の現状、今後いかに管理していくか
第12回	地域社会で働く意義 ～企業が求める‘人財’とは・・・～
第13回	地域の安全と安心に貢献する ～誰も知らない保険のしくみ～
第14回	地域の一隅を照らす仕事 ～「喜ばれる喜び」を生きがいに～
第15回	まとめ
第三者チェック①	修正なし。2025.02.07 大松
第三者チェック②	
第三者チェック③	